

「パヴァロッティの再来」と称されるオペラ界の新星

# ヴィットリオ・グリゴーロ

## 第一部 Prima parte

ドニゼッティ：歌劇「アルバ公爵」より「清らかで美しい天使」  
Angelo casto e bel - Il Duca d'Alba (Donizetti)

ヴェルディ：歌劇「リゴレット」より「女心の歌」  
La donna è mobile - Rigoletto (Verdi)

ドニゼッティ：歌劇「ドン・パスクワーレ」序曲  
Sinfonia - Don Pasquale (Donizetti)

ドニゼッティ：歌劇「愛の妙薬」より「人知れぬ涙」  
Una furtiva lagrima - L'elisir d'amore (Donizetti)

ヴェルディ：歌劇「ナブッコ」序曲  
Overture - Nabucco (Verdi)

ヴェルディ：歌劇「トロヴァトーレ」より「見よ、恐ろしい炎を」  
Di quella pira - Il Trovatore (Verdi)

## 第二部 Seconda parte

マスネ：歌劇「マノン」より「目を閉じれば」(夢の歌)  
En fermant les yeux - Manon (Massenet)

グノー：歌劇「ロメオとジュリエット」より「ああ、太陽よ、昇れ」  
Ahl lève-toi, soleil! - Roméo et Juliette (Gounod)

サン=サーンス：歌劇「サムソンとデリラ」より「バッカナル」  
Bachanale - Samson et Dalila (orchestra)

グノー：歌劇「ファウスト」より「この清らかな住まい」  
Salut, demeure chaste et pure - Faust (Gounod)

オッフェンバック：喜歌劇「天国と地獄」序曲  
Overture - Orphée aux Enfers (Offenbach)

マスネ：歌劇「ウェルテル」より「春風よ、何故私を目覚めさせるのか」  
Pourquoi me réveiller - Werther (Massenet)

ビゼー：「アルルの女」第2組曲より「ファランドール」  
Farandole - L'Artésienne Suite No. 2 (Bizet)

オッフェンバック：歌劇「ホフマン物語」より  
「クラインザックの歌：むかしアイゼナハの宫廷に」  
Il était une fois à la cour d'Eisenach (La légende de Kleinzach)  
Les contes d'Hoffmann (Offenbach)

\* 演目は変更となる場合があります。



指揮者: Marco Boemi  
(マルコ・ボエミ)

# Vittorio Grigolo

12月6日(木) 2018年  
東京芸術劇場大ホール  
19:00開演

12月9日(日) 2018年  
サントリーホール  
19:00開演

大胆にして親密な「妙なる調和」～真摯な情熱を放つイタリアの声～

「今、世界で最も電撃的に説得力がある歌手」ヴィットリオ・グリゴーロの《ウェルテル》表題役を  
ニューヨーク・タイムズ紙が評した時の言葉だ。ウェルテルもそうだが、オペラのロマンティックなヒーロー達は、  
現代の我々には少々エキセントリック過ぎるところがある。しかしグリゴーロがこれらを演じると、観客はその情熱を  
無条件で信じてしまうだけでなく、自らに潜む情熱を呼び覚まされてハッとする。

リサイタルでもそうなのだが、大劇場であっても親密な空間を作ってしまうのは、彼の輝かしいイタリアの声だからこそなせる、  
大胆な魔力なのかもしれない。今シーズンは、満を持してメットで《トスカ》カヴァラトッシ役を歌いあげ、大喝采を浴びた。  
そんな上り調子の彼の魅力が、きっと日本でも炸裂するだろう。

——小林伸太郎(音楽評論家)

## 2018年冬、来日オペラアリア公演決定！